

かちかち山

芥川龍之介

青空文庫

童話時代のうす明りの中に、一人の老人と一頭の兔うさぎとは、舌切雀したきりすずめのかすかな羽音を聞きながら、しづかに老人の妻の死をなげいてゐる。とほくに懶ものうい響を立ててゐるのは、鬼ヶ島へ通かよふ夢の海の、永久にくづれる事のない波であらう。

老人の妻の屍骸しかいを埋めた土の上には、花のない桜の木が、ほそい青銅の枝を、細く空にのぼしてゐる。その木の上の空には、あけ方の半透明な光が漂ただよつて、吐息といきほどの風さへない。

やがて、兔は老人をいたわりながら、前足をあげて、海辺につないである二艘にせうの舟を指さした。舟の一つは白く、一つは墨をなすつたやうに黒い。

老人は、涙にぬれた顔をあげて、頷うなづいた。

童話時代のうす明りの中に、一人の老人と一頭の兔とは、花のない桜の木の下に、互に互をなぐさめながら、力なく別れをつげた。老人は、蹲うづくまつたまま泣いてゐる。兔は何度も後をふりむきながら、舟の方へ歩いてゆく。その空には、舌切雀のかすかな羽音がして、あけ方の半透明な光も、何時か少しづつひろがつて来た。

黒い舟の上には、さつきから、一頭の狸たぬきが、ぢつと波の音を聞いてゐる。これは龍宮の

燈ともしび火の油をぬすむつもりであらうか。或は又、水の中に住む赤魚あかめの恋を妬ねたんででもゐるのであらうか。

兎は、狸の傍に近づいた。さうして、彼等は徐おもむろに遠い昔の話をし始めた。彼等が、火の燃える山と砂の流れる河との間にゐて、おごそかに獣けものの命をまもつてゐた「むかしむかし」の話である。

童話時代のうす明りの中に、一頭の兎と一頭の狸とは、それぞれ白い舟と黒い舟とに乗つて、静に夢の海へ漕こいで出た。永久にくづれる事のない波は、善悪の舟をめぐつて、懶ものうい子守唄をうたつてゐる。

花のない桜の木の下にゐた老人は、この時漸頭やうやくをあげて、海の上へ眼をやつた。

くもりながら、白く光つてゐる海の上には、二頭の獣が、最後の争ひをつづけてゐる。除おもむろに沈んで行く黒い舟には、狸が乗つてゐるのではなからうか。さうして、その近くに浮いてゐる、白い舟には、兎が乗つてゐるのではなからうか。

老人は、涙にぬれた眼をかがやかせて、海の上の兎を扶たすけるやうに、高く両の手をさしあげた。

見よ。それと共に、花のない桜の木には、貝殻かひがらのやうな花がさいた。あけ方の半透明

な光にあふれた空にも、青ざめた金きんいろの日輪が、さし昇のぼつた。

童話時代の明け方に、——獣性の獣性を亡ぼす争まじひに、歡喜する人間を象徴しようとするのであらう、日輪は、さうして、その下にさく象さう嵌がんのやうな桜の花は。

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5186）を、大振りにつくっています。

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

かちかち山

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>